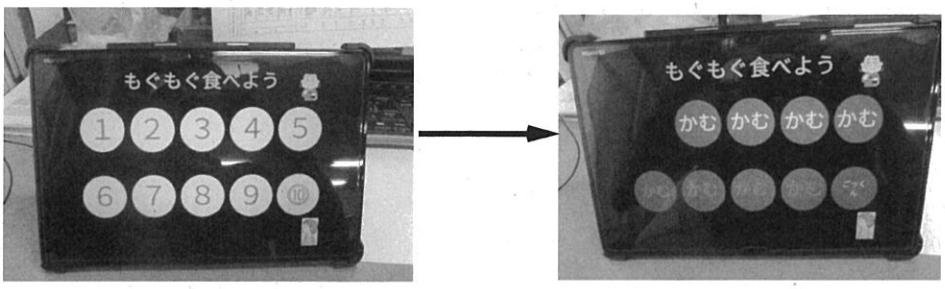
噛む回数を増やすための支援

ー　もぐもぐタイマーで，よく噛んで食べよう　ー



○ねらい

・この教材教具を使用することによって，噛む回数を意識することができる。

○教材・教具を使った実践例

・給食時に使用した。食べることに一生懸命になり，あまり噛まずに飲み込んでいた生徒が，視覚的な教材を使用することで，回数を意識するようになってきた。

・教材の利点は，タブレットは児童生徒の興味関心をもたせやすい。セルフタイマーにしておけば，支援を減らすことができる。タブレットがあれば，どこでも誰でも使用できる。

・今後の改善点として，飲み込む（「ごっくん」の）タイミングがうまくつかめないので，もう少し分かりやすい方法を考えていく。
・実際に噛んでいるイラストを入れることで模倣して行うこともできる。今回は回数を意識させたかったので数字で表示した。

【材料】
・タブレット（android，ios でも可）

【制作方法】
・プレゼンテーションアプリで作成する。アニメーション機能を使用して噛む回数のボタンを作成し，その後表示時間などを設定する。表示時間を設定することでタイマー機能をもたせることができる。
・出来上がったスライドを複製することでエンドレスで流すことができる。

（深澤　光雄）

動物のカウンティング・ボックス

ー数の初期学習をしようー

○ねらい

・さかな，うし，ワニ，うさぎの絵(具体的なもの)を使用しての数のマッチングや抽象的なドットカードを数字カードと対応させることや、カラー碁石を使用して「量」に置きかえて数えることなど、工夫次第で1～10までの様々な数を扱う数字の初期学習に使用することができる。

○教材・教具を使った実践例

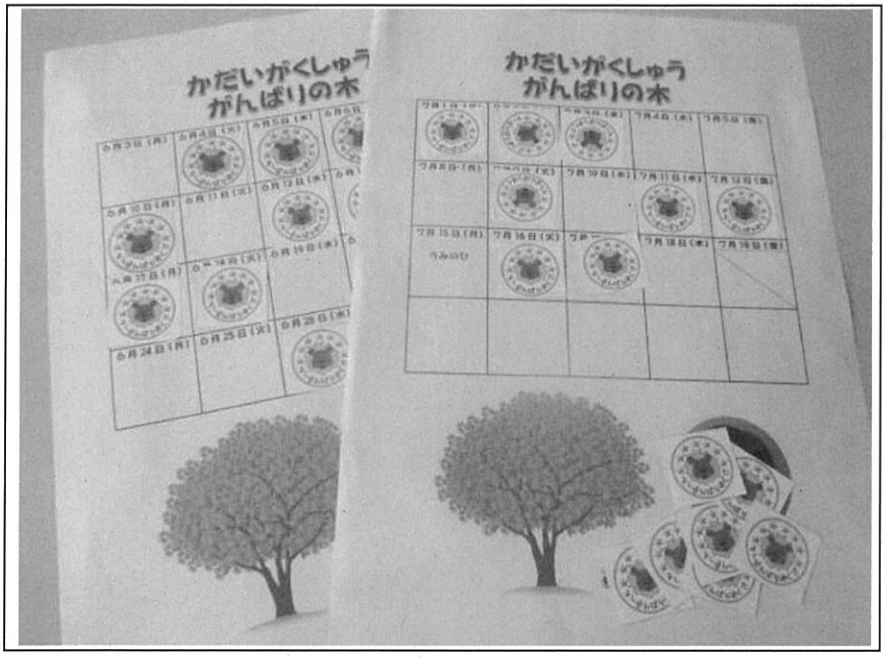
・数字とカラー碁石の対応に使用した。カラー碁石は手に取りやすい大きさなので、ゆっくりと数えながら行うことができた。
・具体物の絵と数字、ドットのカードがあるので、対象の児童生徒に応じて使用することができた。

【材料】
・動物のカウンティングボックス
　インターネット通販などで取扱店があります。

（佐藤　大和）

課題学習がんばろう！

ー　がんばりの木　ー



○ねらい

・課題学習に積極的に取り組めるようにする。

○教材・教具を使った実践例

・小学部児童の課題学習において用いた。課題学習に対して積極的に取り組むことがまだむずかしい児童に，本児専用のがんばりシートを作成し，シールを貼ることを楽しみに学習に取り組めるようにした。

・毎回学習前に「今日も課題学習がんばろうね。がんばったらシールをはろうね。」と伝えるようにした。また学習中に意欲が途切れてしまいそうなときにも「今日もシールをはろうね。」と見せると，がんばろうとすることができるようになった。積極的に学習に取り組めたときには学習後にシールをわたすと，うれしそうに笑顔を見せながら貼っている。今後は課題ごとにがんばりシートを作成してもよい。

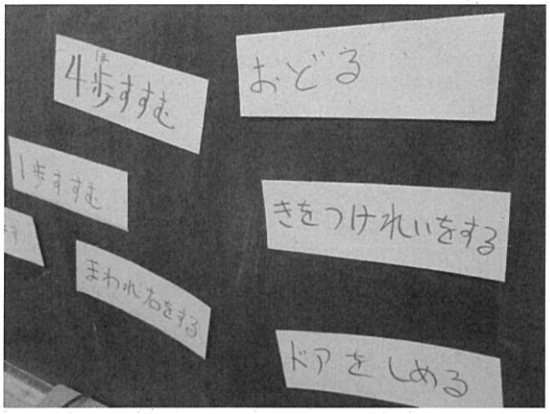
【材料】
・Ａ４用紙
・ラベルシールＡ４

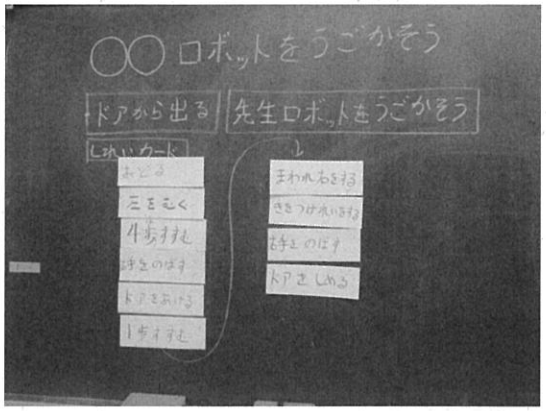
【制作方法】
・課題学習カレンダーを作成し（イラストや写真等を用いて仕上げる），プリントアウトする。
・シール用のイラストを作成しラベルシールにプリントアウトしたものを切る（イラスト等はフリー素材を活用した）。

（岸本　美加）

○○ロボットを動かそう

ー　アンプラグドプログラミング教育導入教材　ー





○ねらい

・プログラミング教育というと，パソコンなどを用いたデジタル教材が想起されるが，本教材はデジタル教材を使用しないアンプラグドなプログラミング教育を目指した。本教材は，プログラミング教育の目的である論理的思考を，ゲーム感覚で楽しみながら体験し，論理的な思考力を深めるための第一歩である。また，カードの中の言葉を児童生徒の実態に合わせて工夫することで，特別支援教育，小学校，中学校，高等学校どの校種にも対応していけることが大きな利点である。

○教材・教具を使った実践例

・上記の写真は小学校で，「先生ロボットを動かそう」というタイトルで実践した際のものである。児童が簡単な動き（一歩進む，右を向く，など）が書かれたカードを並べて，ロボット役になった教師がその指令通りに動くというものである。上記の実践では，ロボット役の教師を，教室から出すことを目的とした。児童は，ロボット役の教師を，教室の黒板前から教室のドアを開けて教室を出させ，ドアを閉めさせる。その手順を分解したカードを，目的を達成するにはどうしたらいいか考えながら並べ替えることで，楽しみながら論理的思考を駆使することができる。

・配慮点，留意点としては，「目的」を設定することである。目的を達成するためにはどうすればよいのか考えることによって，論理的思考が高まって行くと考えられる。その目的の設定を児童生徒の実態に合わせることで，より効果的に思考力を高められる。実際に，先生ロボットを教室から出すという目的を理解できずに，関係のない指令カード（おどる，すわるなど）を使って，終始面白い動きをさせる事に夢中になってしまった失敗例もある。よって「目的」をしっかり「理解」させてから「思考」させることが重要になる。

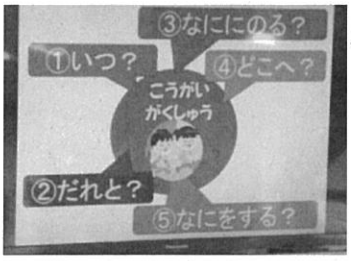
・特別支援学校においては，文字理解の難しい児童生徒への手だてとしてイラストなどの視覚的支援を加えてカードを作成するなど，実態に応じた配慮が必要である。

【材料】
・画用紙
・ペン
【制作方法】
・紙を見やすい大きさに切る
・児童生徒の実態に合わせた言葉づかいで書く

（村田　浩樹）

校外学習「ハーブ庭園へ行こう」

ー　これで安心，見通しをもってレッツゴー　ー



パワーポイントで作成した校外学習1日の流れ

学習したことをモニタクイズで振り返る

1日の流れを時系列で示したしおり

○ねらい

・パワーポイントで作成した「1日の流れ」や「モニタクイズ」で，校外学習「ハーブ庭園に行こう」について「いつ？」「だれと？」「なににのる？」「どこへ？」「なにをする？」の観点ごとに，目的地や活動内容などについて視覚的に分かりやすく伝えることで理解を促す。

・1日の流れを時系列で視覚資料を用いて作成したしおりで，活動内容などを分かりやすく示すことで，校外学習「ハーブ庭園へ行こう」への見通しをもつことができるようにする。

○教材・教具を使った実践例

・事前学習の1時間目において，小学部高学年の児童５名に提示した。「1日の流れ」の提示だけでは，理解を促すことは難しかった。しかし，「いつ？」（6月18日火曜日 OR 明日）「だれと？」（高学年 OR 小学部全員）「なににのる？」（飛行機 OR 電車）「どこへ？」（ハーブ庭園勝沼 OR フルーツ公園）「なにをする？」（石鹸づくり OR そりすべり）というモニタクイズ（一人一問ずつ）を行い，さらにそれらを紙ベースでもう一度確認することで，理解を深めることができた。

・毎年学習している「春の遠足」「冬の遠足」と同じ観点・提示方法で「1日の流れ」を作成することで，さらに内容を分かりやすくした。

・「1日の流れ」「モニタクイズ」で使用した写真やイラストをしおりにも用いることで，統一性をもたせ，分かりやすくした。

・しおりは，Ａ５のサイズで製本印刷し冊子にすることで，扱いやすく見やすくした。

【制作方法】

・パワーポイントのソフトを用いて，作成する。

・しおりは，時系列で視覚資料を用いて，1日の流れを分かりやすく作成し，製本印刷できるように印刷時に調整する。

（岸本　幸子）

食券を買おう！

ー　券売機を体験して自分で食券を買っちゃおう！ー

○ねらい

・校外学習の事前学習において，昼食を注文する際に使う券売機で買う手順や方法がわかる。

○教材・教具を使った実践例

・校外学習の事前学習で，食券の買い方に見通しをもって買うことことができるように番号を付け加えて使用したところ，見通しをもつことが難しい児童に有効であった。
・お金やボタンなど実際の券売機に近い大きさで作ることで，体験を通して理解する児童が見通しをもって買うことができた。

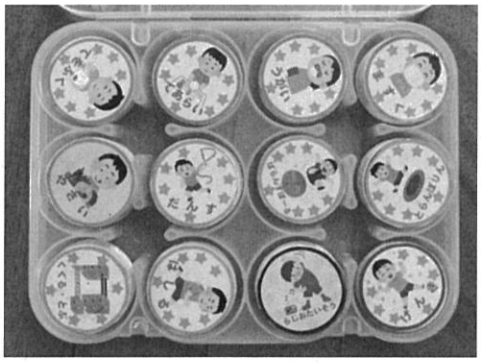
【材料】
・プラスチックダンボール（使用する大きさによって価格が異なる　1,000円程度）
・両面テープ（ダイソー）

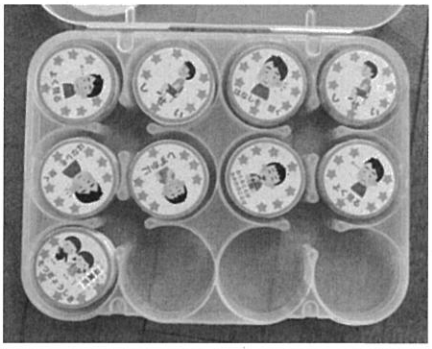
【制作方法】
・券売機の写真を拡大コピーする。
・画像があらくならない程度まで写真を引き延ばす。
・プラスチックダンボールを，拡大した券売機の写真の大きさに合わせて切る。
・お金を入れる部分に穴を開ける。

（土屋　秀一）

元気メダル

― 健康習慣の促進を目指して ―





○ねらい

・日々の生活の中で，児童がうがい，手洗い，マスクの着用，運動などの健康習慣を意識し，自ら取り組めるようになることを目指した。

○教材・教具を使った実践例

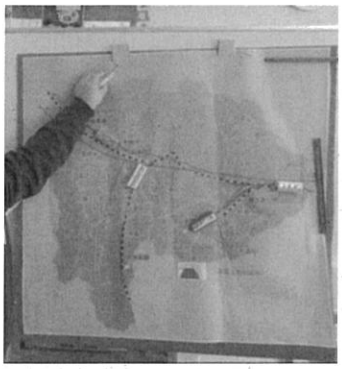
・うがいや手洗いといった衛生習慣は，毎日の生活の中で積み重ね，基本的な生活習慣として定着させることが大切である。まずは，その必要性や大切さなどを児童が理解できるよう，生活単元学習において意義や方法を学ぶ学習に取り組んだ。
・授業の中の演習において，上手にできた時には「元気メダル」で賞賛し，意欲の向上を図った。
・生活単元学習での取り組みは，習慣形成という意味ではきっかけに過ぎないため，授業内容を受け毎日の日常生活の指導の中で，引き続き取り組みを行った。
・児童の実態に応じて，教師の支援を受けて意欲的に取り組めた時にメダルを渡したり，教師が支援をせずとも自ら取り組めた時にメダルを渡したり，習慣として確立し確実に取り組んでいる様子を捉えて渡したりした。
・どの児童もメダルをもらうと喜び，メダルと行動との結びつきについて個々に応じて理解することができた。
・メダルは，妖怪ウォッチやポケモンなどのアイテムを集める感覚で，各自にケースを用意し，少しずつ増えていくメダルを見て自分の取り組みを振り返ることができるようにした。
・発展的な活用として，卒業式の事前学習の取り組みにおいて使用した。「よく見る」「話を聞く」「しずかに」などのメダルがもらえるように，見通しのもちにくい学習においても意欲的に取り組むことができた。
・今後の課題は，メダルを使った取り組みを日常生活の指導の中でいかに継続し，積み重ねていくかということである。確実な習慣形成を目指していきたい。

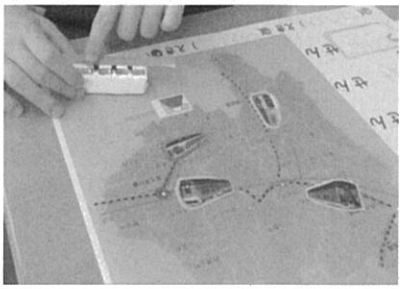
【材料】すべる キズ防止テープ 4 個入り（100 円ショップ），木工用ボンド
　　メダルケース（36 個入り）（100 円ショップ）
【制作方法】
①キズ防止テープを 2 枚貼り合わせる。
②テープの大きさに合わせて，メダルの図柄を PC で作成し，印刷する。
③①のテープの両面に，少量の水で薄めたボンドをはけで塗り，乾かす。
④ケースにメダルの種類が分かるシールを PC で作成して貼る。

（浅川　公子）

山梨の電車を知ろう

ー　電車の模型を動かして楽しく学ぶ教材　ー





○ねらい

・山梨県の電車について関心をもち，その特徴や路線名，駅名を楽しく学ぶ。

○教材・教具を使った実践例

・社会科と国語科を合わせて学習する生活単元学習で用いる。特に，校外学習の事前学習において，生徒が利用する電車を中心に使用した。

【授業の流れ】

①授業の導入では，パワーポイントで電車の画像をモニタに映し，それを見ることで関心を高める。次に，どこの地域を走る電車なのか，何という電車なのかを学ぶ。校外学習と関わらせて，どこへ行く時に乗る（乗った）電車なのかを伝える。

②電車の車体の色に対応させて，ワークシートの路線を色分けしてなぞる。

③モニタで見た電車画像に対応させて，電車シールを用意しておき，ワークシートに貼る。

④車体の色に対応させて，路線名を色鉛筆で書く。必要に応じて，モニタに再度電車画像を写し，確認する。

※ワークシートに書く活動では，実態に応じて視写・なぞり等，個別に対応する。

【教材の利点や使用に当たっての配慮点，留意点】

・山梨の特産や有名な場所を学習する授業でも，この教材を使用した。マジックテープをポイントとなる場所に貼っておき，ラミネートしたイラストカードを貼り付けながら，桃が名産であることや，甲府市に武田神社があること等を視覚的に理解できた。主要な駅名を生徒がカードに記し，それを貼る活動を通して，校外学習で生徒達が乗車する駅名や降車する駅名を印象づけることができた。

・乗車駅から降車駅まで電車を動かして，電車での移動をイメージする。

【材料】

・発泡スチロール（自宅にあった厚さ1.5cmものを利用。幅7cmにカッターで切った）
・シール折り紙　　・細めのストロー (給食の牛乳用ストローの細さ)
・カラーワイヤー 1.8mm (100円ショップ)

【制作方法】

①拡大カラープリンターで，山梨県のイラストを印刷し，ラシャ紙に貼る。

②直方体に切った発泡スチロールにシール折り紙を巻くように貼り，電車の車体を作る。この時ストローを埋め込んでシールで固定する。

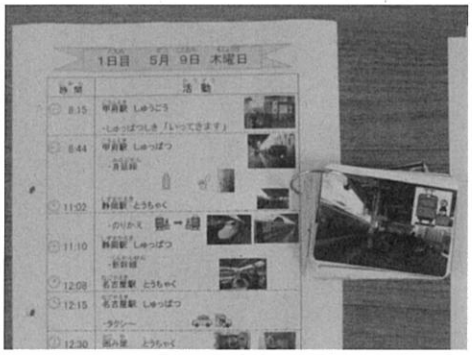
③電車のボディーカラーに合わせ,シール折り紙でラインや窓を貼る。

④電車をワイヤーに通し，拡大山梨県地図にワイヤーを固定する。

（ 武藤　宏子 ）

特別行事の予定カード

ー　修学旅行もこれで確認！バッチリ！スケジュール　ー



○ねらい

・事前学習で確認した日程等と合わせてこの予定カードを当日確認しながら行事に臨むことで見通しと安心感をもって学習活動に取り組むことができるようにする。

○教材・教具を使った実践例

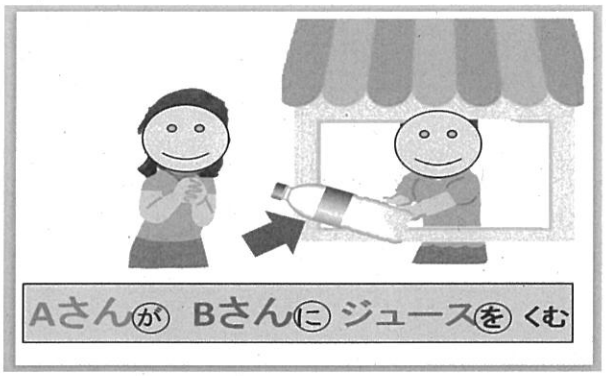
・修学旅行（愛知県名古屋市一泊二日）で，初めての場所や経験に見通しがもてず不安になりやすい生徒に対して使用した。
・事前学習で確認した日程やしおりに記載されている日程（その中の写真やイラスト）に合わせて活動を細分化した予定カードを用意。修学旅行当日，次の活動内容について予定カードを提示しながら説明。活動内容が終わったらリングから外していくことで残りの活動量も提示でき，見通しと安心感をもって修学旅行に行ってくることができた。
・しおりの日程に使った写真とイラストを一致させて作成すること。
・カード１枚の中の情報量は写真もしくはイラストのみとシンプルにする。
・終わった活動を取り外せるようにリングで綴っておく。
・よりシンプルな（枚数の少ない）予定カードでも見通しをもつことができるようになることを目指した指導を心掛けていく。

【材料】
・ドロップスシンボルをダウンロード
・ラミネートフィルムA4 ＆ ラミネーター
・リング（100円ショップ）

【制作方法】
・修学旅行のしおりに沿って，A4に８枚の予定カードを作成し，印刷。ラミネートをかけて８等分に切る。「角丸くん」を使用し４隅を丸くし，隅に穴を開けてリングに綴る。

（波多野　浩史）

助詞を含んだ三語文の指示理解を促す視覚的手がかり



○ねらい

・この教材を提示しながら活動の指示をすることによって、「A さんが B さんにジュースを汲む」という行動を理解できるようにする。

○教材・教具を使った実践例

・お菓子作りの場面で、知的障害を有する音声言語理解の弱い自閉スペクトラム症児 A に,「A さん、B さん(友達)にジュースを汲んであげてね」と指示をしたが、行動しようとしなかった。本教材を提示しながら指示をしたことで、A は自分のすべきことを理解し、B さんにジュースを汲むことができた。

・自閉スペクトラム症児は自己・他者・物との関係性の理解が乏しいため、助詞の理解も必然的に難しくなる。教材を提示しながら指示を出す際に、注目すべき場所を指差し、助詞の機能の理解を促す工夫が必要である。

・本児の興味・関心に応じて国語の時間に同様の助詞を取り上げたり、生活の中で意識的に教師が助詞を使用したりすることで、深い学びとなるようにしたい。

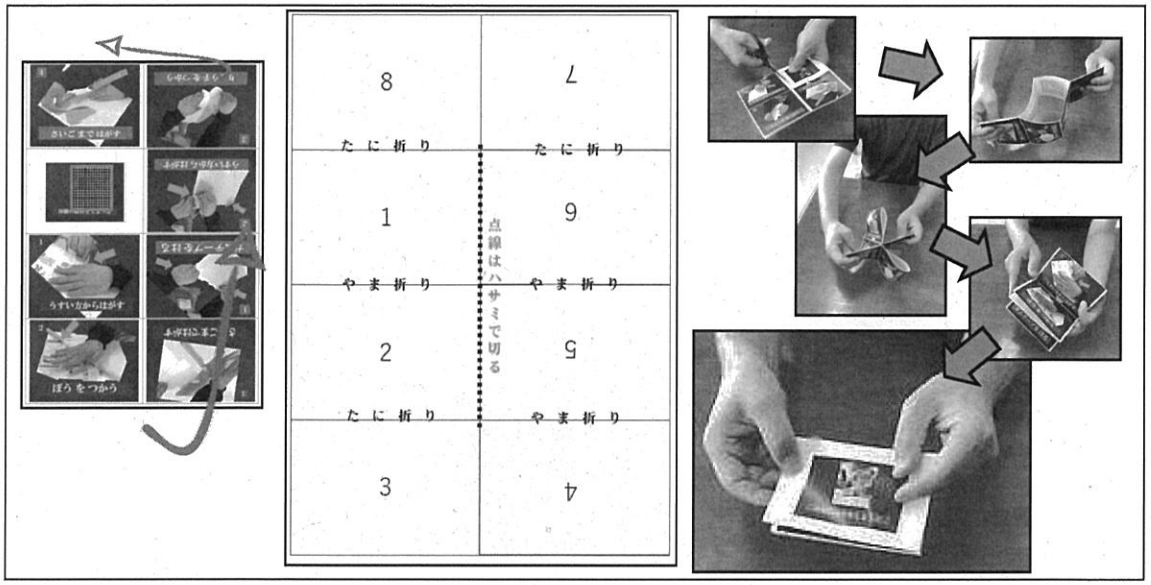
【材料】
・紙
・ラミネート用紙

【制作方法】
①パワーポイントを使用して作成する
②カラープリンターで印刷する
③ラミネートする

（青木　雄一）

かんたん，めくり手順帳

ー　１枚の紙を切って折って１０分でできる絵本　ー



○ねらい

・手順がある程度ある作業やプログラムで一枚ずつ画像を見せたいときに使う。もとの形式を作っておけば，8ページの手順表として，もしくは簡単ミニ絵本など，いろいろなものに転用できます。

○教材・教具を使った実践例

・紙パックのラップを剥がす作業。手順は難しくないが，裏表があり混乱しやすい。そんなときに一枚めくりの手順表があるとイイですよね。でも一枚めくりのものは少し作るのが面倒…。そんなときにこれが役立ちます。

・作業手順を説明するのに，生徒に見せながら1ページからめくってやると，興味をもちました。それで，1ページずつ作業手順に合わせてページを開くと，片手で写真を提示できます。このときは，表裏順番に1枚ずつ見ながらできたので良かったです。

・おすすめポイントは作るのが簡単だし，パターンを1回作ると違う手順表，絵本も簡単にできること，たとえば行事が終わったときに表紙と7枚の写真を配置して，行事アルバムをプレゼント，なんてのもいいですよね(*^。^*)

【材料】
・紙，はさみ

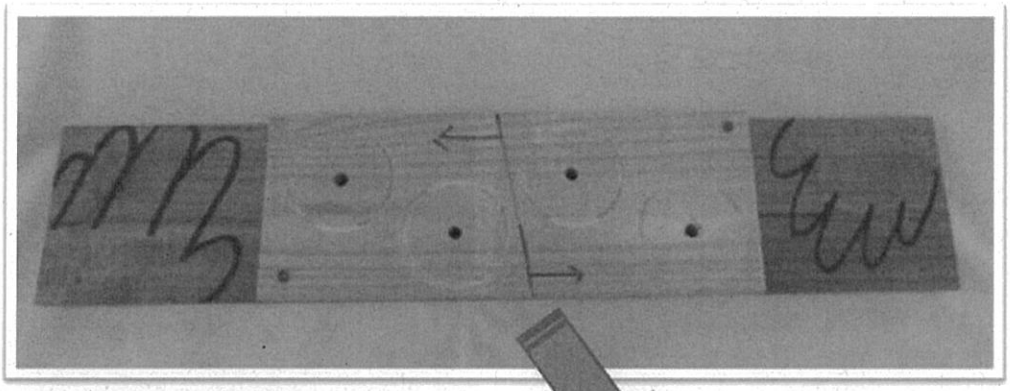
【作り方】（上図参照）

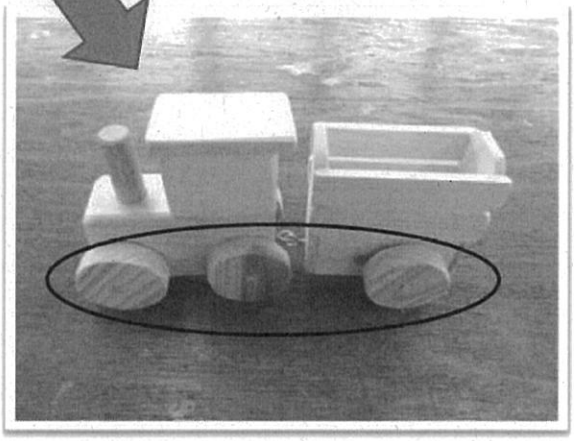
①エクセル等で もとの画像8枚を作る。（図のように配置）
　写真のものはパワポ画面をスクリーンショットしたものをそのまま使ってます。
② A4などの紙に印刷。（A3なら拡大して2倍の大きさに）
③紙を半分に折って，切れ目（点線）を入れる。
　少し長めに切ると仕上がりがきれいになります。
④折ったら完成。縦にやま折りしてから折ります。（図右参照）

（花形　章）

ボール盤用　車輪切り出しサポートグッズ

－　安全に，一人で丸形部材が切り出せるよ　－





○ねらい

・この支援具を使って切断することによって，一人で安全に作業できるようになり，自信をもち，さらに意欲的に取り組めるようになる。

○教材・教具を使った実践例

・作業学習の木工班において，ボール盤における丸形部材の切り出しの工程を担当する生徒が使用した。支援具が無いときは，印をした板材を直接手に持っていたが，ホールソーの刃に手が近くなると不安もあり，ためらう様子が見られた。この支援具を使うことで不安が無くなり，スムーズに作業が行えた。

・おすすめポイントは，支援具に手形を表示することで，押さえる位置が一目でわかるようにした。

・今後の改善点は，何度も使用すると支援具にも中心ドリルの穴が空くため，作り直す必要がある。半年くらいで取り替える予定である。

【材料】

・全て端材であるため，費用は０円。

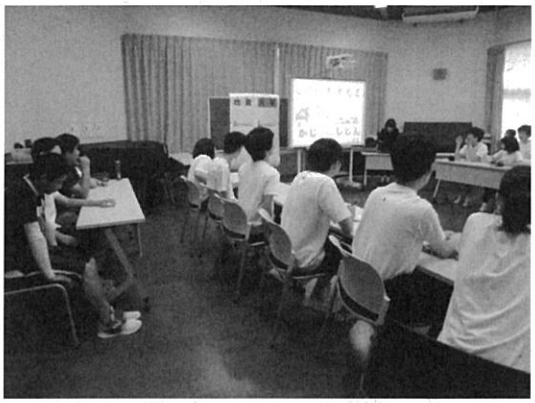
【制作方法】

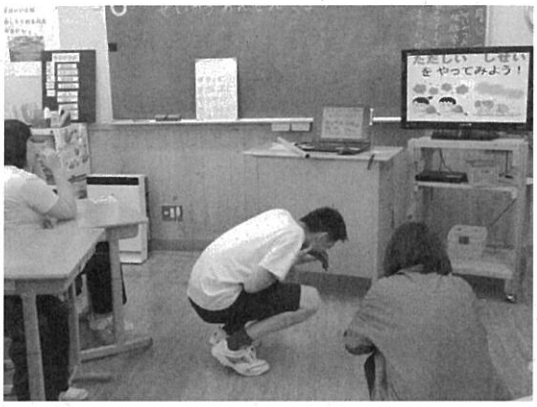
・上の図の通り。くり抜く板材は，その都度ネジで固定する。

（近藤　光彦）

生活安全学習・防災学習（デジタル教材）

ー　地震や火災から自分を守る　ー





○ねらい

・防災学習や生活安全学習，避難訓練の事前や事後（振り返り）に使用し，繰り返し学習することによって，防災意識を高め知識の定着を図る。

○教材・教具を使った実践例

・生活安全教室（高等部）や，防災体験の事前学習・振り返りで使用した。実態別グループに分かれての学習場面では，視覚支援の必要な生徒に対し，地震や火事の時に「自分をまもる」方法の具体的方策をイラストや写真で説明し，授業の流れの中でクイズ形式・体験活動を取り入れ，画面を確認しながら集中して学習することができるよう工夫した。
・大きい画面での視覚支援により，画面に集中することができ，全体学習の場面でも落ち着いて学習することができた。
・必要な行動と言葉とを画面上で同時に確認することで，よりシンプルに理解できるように工夫した。提示のタイミングや，使用法を工夫し，実態に合わせ活動を取り入れることができるようにする。
・今後の改善点としては，実態に合わせて使うことができるように，基本パターンをベースとして発展パターンを用意する必要がある。

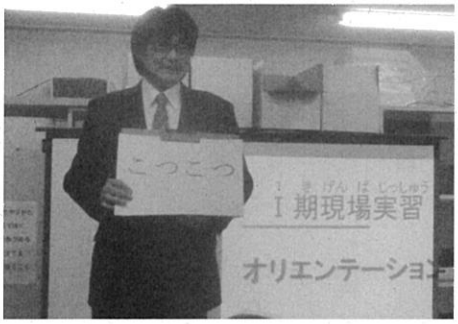
【材料】
・パソコン
・テレビ
・「いらすとや」防災画像

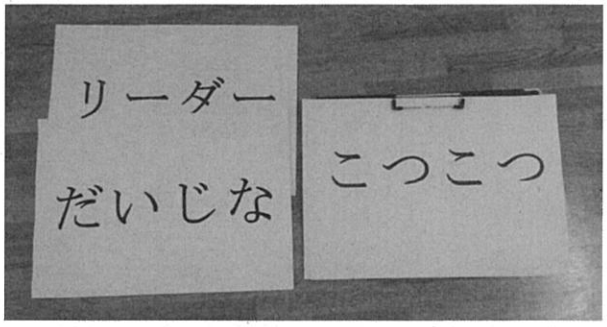
【使用方法】
・パワーポイントを使用
・親しみやすい防災画像を使用し，言葉とイラストをシンプルに取り入れ，ベースとなる教材 PP を作る。

（志村　美和）

先生の話きっかけ文字めくりフリップ

ー　聞き手と話し手のわかりやすさのために　ー





○ねらい

・生徒全員で集まり，様々な授業や行事での「～先生の話」といった教師の話の場面で，このフリップを見せながら，話の展開に関連した文字（キーワード）を，1枚1枚めくりあげながら話すことによって，生徒が今何の話をしているのかを目で理解しながら聞くことができたり，生徒に「これは何と読みますか？」と問いかけてコミュニケーションをとったりしながら，教師が話をすることができることをねらう。

○実践例

・例えば，現場実習オリエンテーションの「守木先生の話」の場面では，大事なこととして「こつこつがんばる」ということを毎回話しており，「こつこつ」というキーワードをこのフリップで提示した。提示の前に「○○○○がんばる」というページを用意し，すでにわかっている2，3年生には○にどんな文字が入るか問いかけたり，話をしている最中，障害特性から声を出してしまいがちな生徒には，あえて何と書いてあるか質問し，答えることができると，声を出していても集会に参加できていることが生徒全員にアピールできたりした。「こつこつ」とは「自分ができることをつづける」ことであると繰り返し話しているが，このフリップを毎回使用することにより，私が伝えたいことを生徒が予想できるようになったり，他にも指名された多数の生徒が文字を読むことによりコミュニケーションをとりながら話をすることができたりした。また，話し手の自分もあわてることなく，予定していた伝えたいことをもれなく伝えることができた。キーワードは他にも「だいじな」，「そうだん」，「感謝」など多数ある。他にも様々な場面で，私が生徒全員に話をするときには文字を変化させて使っている。

・教材の使用に当たっては，できるだけ短く，印象深くよみやすい文字を選択するようにしている。また，話をする時間が長くなり過ぎないよう，フリップの枚数を調整して与えられた時間を守っている。

・今後の改善点は，生徒が興味あるキーワードをさらに探り，自分が行う話の場面において，リアルタイムで生徒たちがさらに興味をもてるようにすること。

【材料】Ｂ４版またはＡ３版のクリップボード（100円～600円くらい）
　　文字が印刷された何枚かの紙

【制作方法】

・伝えたい話の内容に関連したキーワードを考え，Ａ３版横の紙に印刷し，クリップボードに順番にはさんでおく。あらかじめホチキスで止めておき，めくりやすいように付箋をつけておくと話をするときに円滑である。

（守木　智）

「お知らせチャイム」

ー　〇〇がはじまるよ！じゅんびをしよう♪　ー

①お知らせチャイム「ねずみくん」（鉄琴）

②お知らせチャイム「ベル」（ハンドベル）

〇ねらい

・自分から気持ちを切り替え，次の活動に移る準備をすることをねらいとした。
・本校は始業のチャイムが少ないので，教師の声掛けにより次の活動に移ることが多い。教室から移動して行う活動では，授業の始まりが分かりやすいためスムーズに切り替えられるが，教室内の活動の際は，夢中になっていたお絵かきや遊びからなかなか切り替えられずにいる場面も多く見られる。「音」を合図にすることで授業の始まりが分かりやすく，自分から気持ちを切り替えるきっかけになる教具を２種類活用することにした。

〇教材・教具を使った実践例

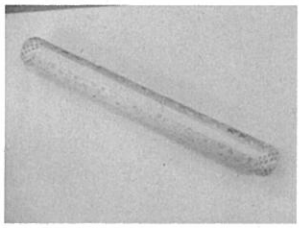
・教室内での朝の会，課題学習，帰りの会などで担任が鳴らし，「〇〇が始まります。椅子に座りましょう。」と児童に伝えた。児童は次第に，言葉の指示がなくてもチャイムを聞くことで自分から座れるようになった。
・給食準備に取りかかる時に係の児童が鳴らして友達に始まりを知らせた。児童は給食エプロンの着用→手洗い→着席を自主的に行うようになってきた。
・今後の改善点としては，いずれは時計を読んで行動ができるように，段階的に支援を減らしていくことである。

【既製の商品を使用】
・鉄琴
・ハンドベル

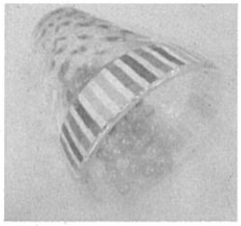
（笠井　香）

癒しの３点

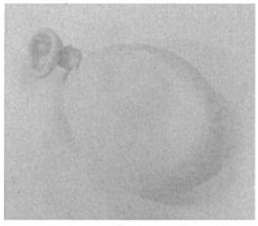
ー　耳から，目から，感触から　ー



＜レインスティック＞



＜きらきらカップ＞
ビーズが動くと
万華鏡のようです。



＜スクイーズ＞
学級では「ぷにぷに」
と呼んでいます。

レインスティックのさらさらとした音に
耳を澄ませる児童

○ねらい

・様々な感覚に働きかけて，情緒の安定を図る。

○教材・教具を使った実践例

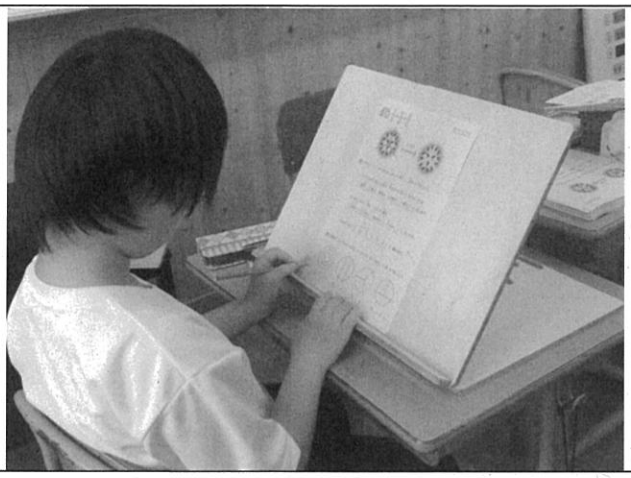
・レインスティックは音楽の授業で使用したが，児童が音を楽しむ様子が見られたため，休み時間等にも自由に使用できるようにした。
・キラキラカップはカラフルなものの動きを好む児童用に制作した。
・スクイーズは，学級では「ぷにぷに」と呼んでいる。その名の通りの感触に，学級のどの児童も興味を示し，ふと思い出したように出してきて握っている場面が見られた。
・3 つとも万一口に入れても大丈夫なもの（薬品等を使用していないもの）を中に入れた。ただし，スクイーズについては，小麦粉アレルギーがある児童生徒がいる場合には注意が必要である。また，中身（音や感触のもと）が気になってはさみ等で切った児童もいたので，安全に留意した管理や使用が必要である。

【材料】
＜レインスティック＞
・ラップの芯　・爪楊枝　・ボンド　・色画用紙　・マスキングテープ
＜キラキラカップ＞
・透明なプラスチックコップ　・ビーズ　・透明なシート　・マスキングテープ
＜スクイーズ＞
・ゴム風船　・小麦粉
【制作方法】
＜レインスティック＞
・ラップの芯に螺旋状に 2cm 間隔で千枚通し等で穴をあけ，爪楊枝を差し込む。爪楊枝の飛び出た部分をカットし，ボンドで固定する。
・筒の中に爪楊枝の切り落とした部分（小さくカット）などを入れ，両端を色画用紙で閉じ，側面を色画用紙やマスキングテープで飾る。
＜キラキラカップ＞
・透明なカップに色とりどりなビーズを入れる。
・カップの口に透明シートを貼り，マスキングテープで飾る。
＜スクイーズ＞
・漏斗を使ってゴム風船に小麦粉を入れ，口をしばる。

（青嶋　由美）

視覚支援サポートグッズ　書見台

ー　見えにくさを感じている生徒のために　ー



○ねらい

・書見台を上図のように使って学習することによって，追視・注視・視写をスムーズにできるようにする。

○教材・教具を使った実践例

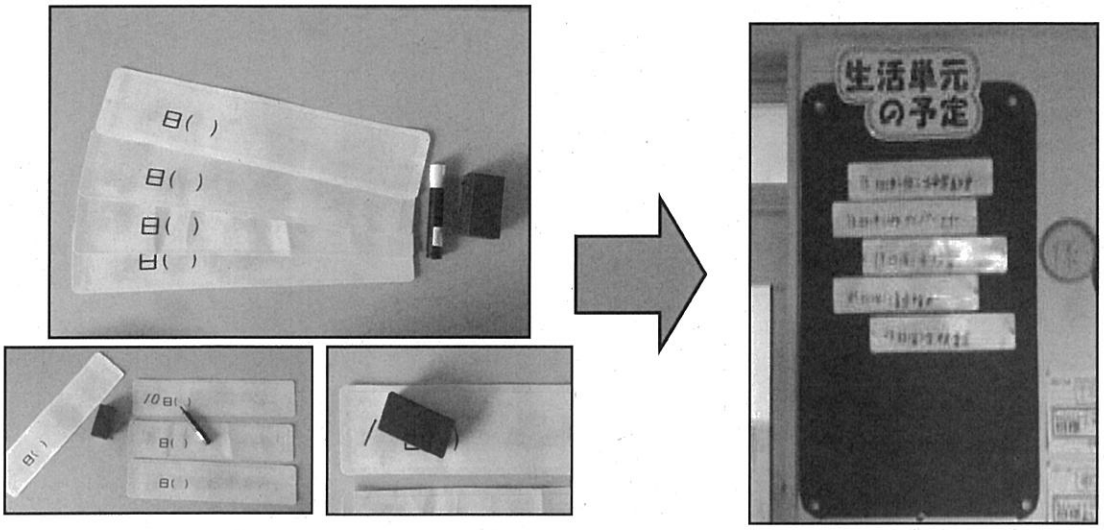
・教具の利点としては，見えにくさを感じ，姿勢の保持や集中して字を書くことが難しい生徒に個別学習を中心に使用したところ，姿勢も良くなり，以前より学習活動に集中できる時間が長くなったことや，使用当初は，読みやすさへの効果を期待していたが，生徒自身が見えやすくなったことで，課題学習に意欲的になり，写しやすさにも効果が出てきたことが挙げられる。
※１台を学校で使用し，別の１台を家庭で使用している。
・教具の使用に当たっての配慮点は，姿勢の保持のため，書見台の高さを授業前にこまめに調節することである。
・今後は，日常生活の他の場面にも活用できるように，改良して行きたい。

【材料】
・シナベニア（１０００円　ホームセンター）
・蝶番（大きめのもの１つか小さめなら２つ）・釘　・木工用ボンド　・やすり
【制作方法】
・シナベニア板を（机より一回り小さいサイズに）２枚切る。
・教材を置くために，シナベニア板を２㎝前後×４０㎝前後に切る。
・シナベニア板の切り口などにやすりをかけ，触れてもケガをしないようにする。
・蝶番を釘かネジで固定し，２枚のシナベニア板を合体させる。
・１枚のシナベニア板の上に，細長く切ったベニヤ板を５～６か所，木工用ボンドでとめ，固定する。
・もう１枚のシナベニア板の端に，教材を置くための板を木工用のボンドでとめ固定する。
・必要に応じて滑り止めシートの上で使用する。

（大脇　知恵）

みんなでつくる予定表

ー　主体的に見通しをもって生活するための掲示物　ー



○ねらい

・自分たちに関わる予定を色とりどりの予定シートに書き出し，並べ方を工夫しながら掲示する。書くだけでなく，色を楽しんだり，掲示することを楽しんだりすることで，予定に関心をもつことができる。ホワイトボード用のマーカーで何度も消したり，書いたりすることができるので一年間を通して使用が可能である。

○教材・教具を使った実践例

・その月に行う生活単元の内容（予定）を掲示する際に使用している。月が変わると「予定を変えなくていいの？」と自分からたずねる生徒も出てきた。予定シートを自分たちで外して過去の予定を消し，今月の予定を分担しながら記入している。書き終わると掲示する人，予定シートを渡す人，画びょうを渡す人など学級の仲間で協力しながらつくる「毎月の掲示物」になりつつある。

【材料】　・画用紙　・紙（Ｂ４）　・はさみ　・のり　・ラミネーター
・ラミネートフィルム　・角まるくん　・ラシャ紙
・ホワイトボード用ペン

【作り方】

① ワード等で日・曜日を書く欄のある様式を作成する。（Ｂ４の紙（横）に２枠）
② 印刷し，短冊状に切る。
③ 薄めの色の画用紙（横）を選び，短辺を半分に折り，折り目を切る。
④ ③の画用紙に②の紙を貼る。
⑤ ④をラミネーターにかける。
⑥ ⑤を画用紙の大きさに合わせて切り取る。角は角まるくんを使ってとる。

※予定シートを掲示する場所は，濃いめの色のラシャ紙を貼り，シートが目立つように配慮。

（小﨑　由加里）